令和3(2021)年度 岡本特別支援学校 学校評価シート

教育目標、学校経営方針

教育目標	児童生徒の病状、障害に応じた教育を行い、一人ひとりの個性、能力、創造性を伸ばし、社会に参加、貢献できる人間を育成する
	○ 児童生徒・保護者のニーズに応じた教育の充実○ 児童生徒の心身の健康や人権を守る、安心・安全な教育環境の整備○ 学校・家庭・病院・地域が連携した学校づくりの推進○ 教職員が一人一人の力を発揮する、やりがいのある学校づくりの推進

※評価基準 A:達成できたB:概ね達成できたC:改善が必要

重点目標(推進担当)	評価項目(各学部、分掌部で1点)	現状	達成目標	評価の観点	評価	次年度の改善策
じた教育の充実 ●病弱教育についての専門性向上のための研修や授業研究の推進 ●教材の工夫とICT機器の活用 ●新学習指導要領に合わせた個別の指導計画と児童生徒と保護者のニーズをくみ取った個別の教育支援計画の作成と次のステージへの円滑な移行 ・キャリア教育の推進 ・進路希望実現に向けた対応 ・関係機関との必要な情報共有 ・前籍校や地元校への復帰支援		を共通理解しているが、担任や副 担任の考えによるところが大き い。必要な支援について全体で	部全体で話し合い、本人にとって	についての検討や評価を学部全体で行うことができたか。 ・生徒の現状に合ったより良い支援を考えることができたか。		・実態把握や支援の方法等についてCo-MaMeを活用して取り組んだが、十分な時間をとって検討することができなかったので、次年度は計画的に時間を設ける。
	・遠隔教育を実施することで、学び	的に応じた継続的な取り組み	・地元校と連携し、目的(地元校との交流・学習の継続等)に応じた継続的な遠隔教育の実践を図る。	標達成のための検討ができたか。	・今年度は、転入時に地元校及び保護者に対してニーズの確認及び通信環境の確認をすることはできた。地元校と本人・保護者のニーズ、通信環境が一致したケースでは、積極的にリモートによるつながりをもつことができたが、ケースとしては少なかった。	・今年度の実施の記録からは、入院中、通信環境は整っていても、児童生徒本人の希望がなく実施しないケースが多かった。また、自宅療養期間の遠隔教育については地元校の準備が整っていないため実施できないケースも多く見られた。このような状況を踏まえた上で、スムーズな実施に向けて、今後もリモートの有効な活用に向けて取り組んでいきたい。
	レット型端末機の有効な利用方法を模索し、啓発する。	場面での有効な活用方法につ	児童生徒や教員が、端末機	・端末機が校内において、有効に活用されるようになったか。	・教務部員は率先してタブレットを活用し、 啓発に努めることはできたが、多くの教員	・今後も、タブレットをはじめ電子黒板や VRゴーグル、メクビットの導入などICT機 器の活用について共通理解を図りなが ら、進めていく。
	実	機器を活用した学習を推し進め、児童生徒の個に応じた効果的な学習を持ちた	づいて叙科寺部会や子部会寺で	に学習に取り組む姿勢を養ったりすることができたか。また、ICT機器を活用した学習のメリットデメリットについて共通理解をはかることができた	・タブレットや電子黒板などのICT機器を活用した授業を学部や学級ごとで行った。おおむね、児童生徒のICT機器に対する受け入れは良く、機器の操作や授業に意欲的に取り組む態度が見られた。ICT機器の使用を見	・ICT機器を使用することで児童生徒の学習に対する興味・関心が喚起されることが分かった。次年度は、実践を積み重ねて、情報交換をしながら学習指導をより充実させるためのICT活用について考える。
○児童生徒の心身の健康や人権を守る、安心・安全な教育環境の整備 ●防災教育の推進、健康・安全指導・安全対策の充実 ・自分の身を守る避難訓練の実施と健康・安全指導の実施 ・感染症の予防やアレルギー対応のための職員研修の充実 ・ヒヤリハット事例の集約と共有 ●教職員の人権意識の高揚と、児童生徒の心と健康を大切にした指導の充実	・医療的ケア実施児童の緊急時の 安全を期した対応		応ができ、各教員で情報の共	難訓練を実施し、安全を期した対応 を積み重ねることができたか。	・緊急時に持ち出すケア用品等を写真 カードにして教室に表示した。学部内で	め、各児童のケア用品の確認・表示をし
	【中学部】 ・心と健康を大切にした指導の充実と安心して学べる環境の整備	しをもちにくく、不安になりやす	を充実させ安心して学べる環	共有して、生徒に合わせた環境調整を オスニトができたか	・情報を共有して、環境調整を行うことができた。 ・生徒に不安定な様子が見られた際の 状況に応じて丁寧に対応することができ	について情報を共有し、生徒に合わせた

	【やしお学級】	・教員の健康管理は各自で	-スタンダードプリコーションに	┃・毎日、体温・体調を健康確認表に	[(A)	
	・感染症の予防に努め、安全に授業を行う。	行っている。 ・手で触れる場所、使用した教材は、毎日塩素系の消毒液で 消毒している。	ついて研修を行い、感染症予防の意識向上を図り、体調管理に努める。 ・実施箇所を表記した消毒確認表を活用し、毎日消毒を行い、複数の教員で確認する。	記入できたか。 ・スタンダードプリコーションについて 研修を行い、具体策について理解 し、感染症予防の意識向上が図れた か。 ・毎日の消毒を徹底し、複数の教員 で確認できたか。	・教員全員が毎日手洗い、検温を行い、健康確認表に記入できた。 ・年度始めと夏休みにスタンダードプリコーションの研修を行い、効果的な手洗い等について意識して実践できた。 ・教員間で声を掛け合い、毎日2人体制で消毒や清掃を行った後、消毒確認表でチェックをすることができた。	・消毒の仕方について、年度始めや夏休み等に全員で再確認を行いながら実践する。 ・なるべく早い時期にスタンダードプリコーションの研修を行う。
	【健康安全指導部】 ・自分の身を守る避難訓練、安全指導の実施	練(竜巻対応及び引き渡し・春 の火災地震・不審者対応・秋 の火災地震・予告なし)の際に は、健康安全指導部担当者や	員自らが適切な判断をして訓練に参加する。	ることができたか。 ・「自分で考えて行動できた」「身を守る行動ができた」の児童生徒の反省(5回平均)が80%以上だった。	・新たな試みで、校内点検カードを作成した。その結果、職員の校内点検などの対応が迅速、適切にできた。 ・リーダーの指示が的確で、職員や児童生徒が安心して動けた。	・校内点検カードに、破損箇所などを点検者に貼ってもらい、そのまま、避難場所に持ち出せるようにする。 ・避難時、割れたガラスの対応として、軍手もするように努める。 ・初期消火について、消火器を持ってくる人、消火する人と分担し、効率よく消火活動が行えるようにする。
○学校・家庭・病院・地域が連携した学校づくりの推進 ●関係機関と連携した取組の充実と実践の積極的な発信・交流及び共同学習の充実・家庭や病院との細やかな連携・ホームページの充実と地域への情報発信の充実				内容を工夫して発信したり、保護者へのアンケートでホームページの閲覧状況を把握したりすることができたか。 ・保護者が情報交換を活発に行う様子が見られたか。	ンケートの結果、12人中9人が閲覧していた。	いては、今後も会議の際に口頭で知らせたり、資料に記載したりして閲覧を促していく。 ・今後も情報交換のできる時間を設けら
	【進路・卒後支援部】 ・進路実現に向けて主体的に取り組める情報の発信とホームページの更新	・進路だよりやキャリア教育の取り組み、各学部の進路に関する行事をホームページへ掲載している。 ・キャリア教育の取り組みは、校内にも掲示し、児童生徒や保護者に啓発を行っている。 ・進路情報コーナーを校内に2カ所設置し、情報提供を行っているが、十分に活用されていない。	をくみ取り、進路だよりやホームページに掲載する。 ・校内の進路情報コーナーを 工夫し、充実を図る。	・校内の進路情報コーナーのレイアウトや内容を工夫し、情報提供ができたか。	・進路希望調査や日頃の会話などから保護者のニーズをくみ取り、進路だよりやHPに事業所の紹介や高等部の作業の様子を掲載した。しかし、HPに掲載できなかった行事もあった。	
	【特活・交流部】 ・交流及び共同学習における間接交流と、校内における相互理解を深める学習の充実を図る。			をもって参加することができたか。 ・登校が難しい児童生徒との間接交流を工夫して行い、充実させることができたか。 ・交流校と連携して、間接交流を計画し実施することができたか。	・体調や感染状況に合わせた活動を工夫することで、活動の機会を増やし、一人一人の主体的な活躍の場を広げることができた。 ・院内学級の児童生徒が、映像を活用して行事に参加したり、共同で作品作りを行ったりすることができた。 ・双方向となるよう工夫して間接交流を実施	・昼休みの活動が負担となる児童生徒が増えている。昼休みの活動を精選し、主体的な活動の実施に重点をおく。 ・校内における交流を、継続して実施する。児童生徒の負担にならないよう内容を工夫する。 ・今年度は実施した間接交流を、来年度はスムーズに実施できるように引き継ぐ。手順や様式、内容などについて、年度初めに全体で共通理解を図る。
	【支援部】 ・円滑な連携を図るための協働体制 の確立	・関係機関や各学部・院内学級・分教室、分掌部との連携が必要な業務が多い。	・就学、転出業務を円滑に行 うため、関係機関や各学部・ 院内学級・分教室、分掌部と の連携を図る。	て、業務が円滑に遂行できるよう、マニュアルをもとに連携を図っていくことができたか。	(本校)学校公開・体験学習、就学・教育相談については、ケースごとに細かな配慮が必要とされた。関係機関との連絡・調整後、その都度各学部・院内学級と連携し、実施していくことができた。 (分教室)就学相談・教育相談・高校生支援・復学支援について、関係機関と連携を図り実施していくことができた。	・今後も、児童生徒居住地・教育委員会担当者と情報交換をしていけるように努める。また、就学・教育相談についても、事前の情報収集を行い、関係職員で共通理解が図れるように努める。 ・各マニュアルについて、来年度も実施しながら確認し、必要に応じて変更していく。また、マニュアルを基本にし、ケースに応じて臨機応変に対応できるようにする。